

丸紅情報システムズが全社セキュリティ基盤に「Kaspersky Business Space Security」を採用

情報セキュリティソリューションを提供するカスペルスキーは、丸紅情報システムズに同社の「Kaspersky Business Space Security」が導入されたことを発表した。

丸紅情報システムズは、旧・丸紅情報システムズと丸紅ソリューションの合併により誕生した。IT専門商社とSIerの融合によって生まれたことから、他社にはない強みを有している。SIの分野においては、企画、設計・構築から本番稼働後の運用に至るまで、ワンストップで対応できる豊富なソリューション群を用意、顧客企業の要望やニーズに合わせて最適なITインフラを提供している。グローバルに展開する同社の事業活動を支えるのが情報システム部だ。同部は、社内システムの構築や運用、アプリケーションの選定・検証など様々なミッションがあるが、中でも情報セキュリティは、最重要テーマの1つになっている。それは、IT企業である以上、万が一、セキュリティに関する重大なインシデントが発生すれば、それだけで信頼を失いかねないからだ。そのため、同社ではISMSやプライバシーマークなどの公的認証の取得にも積極的に取り組む一方で、社内にもセキュリティ委員会を設置、安全・安心の確保に努めている。

しかし2社が合併したことで、情報セキュリティに新たな課題が浮上した。各社それぞれに異なるアンチウイルス製品を導入していたため、2種類の製品の混在運用を余儀なくされていたのだ。こうした状況は、セキュリティポリシーの統一が図れないばかりでなく、コスト面や運用面でも大きな負担がかかっていた。そこで同社は、新会社のビジネスを支える新たなセキュリティ基盤を確立すべく、アンチウイルス製品の見直しに着手した。これまで各社で採用していた製品のどちらかに片寄せする手もあったが、同社ではあえてこの方法を取らず、ゼロ

ベースでの再検討を実施し、その結果新たに採用されたのが、企業ネットワークをあらゆる脅威から包括的に保護するカスペルスキーのセキュリティソリューション「Kaspersky Business Space Security」だった。同社で社内ネットワークの構築・運用や情報セキュリティなどの業務を担当するネットワーク管理課 担当課長の川副正裕氏は、その理由について「ビジネスを守るための製品である以上、プロテクション能力の高さが非常に重要なポイントになります。その点、カスペルスキーの製品は業界屈指の高い検知・防御能力を誇る上に、従来導入していた製品と比較してパターンファイルの更新頻度なども多く、それだけ最新の脅威への対応が早いと感じていました」と語っている。

Kaspersky Business Space Securityの導入によって、同社では、様々な脅威に対抗できる強固なセキュリティ基盤を実現した。中でも注目したいのが、スマートデバイスのセキュリティ保護のためにも活用されている点だ。現在、約1,400台のクライアントと約60台のサーバに加えて、約600台のAndroidスマートフォンの安全を守るツールとして活用している。川副氏とともにネットワーク管理課 担当課長を務める吉井氏は「これまで会社から支給していた携帯電話をスマートフォンへリプレースすることになったため、スマートフォン環境のセキュリティをどう守るかが課題となりました。その点、Kaspersky Business Space Securityは、Windows、Linux、Mac OSだけでなくAndroidにも対応していますので、こうした新たな課題にもスムーズに対応することができました」と語っている。

カスペルスキー E-mail : press@kaspersky.co.jp